

自己評価報告書

平成23年 5月23日現在

機関番号：32509

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20500527

研究課題名(和文)日本の武道文化の成立基盤 新陰流と一刀流剣術の研究を通じて

研究課題名(英文)A Study on Establishment Factors of Budo in Japanese Culture as seen in Shinkage-ryu and Itto-ryu

研究代表者 魚住 孝至(ウオズミ タカシ)

国際武道大学・体育学部・教授

研究者番号：70203495

研究代表者の専門分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード： 武道 剣術 流派 新陰流 一刀流

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、江戸時代の武道文化の形成で主導的な役割を果たした新陰流と一刀流剣術を中心に、流派剣術の元来の形の仕様とその思想を明らかにすることを通して、日本の武道文化の成立基盤を解明することである。そこで、以下の研究計画を立てている。

- (1) 新陰流・一刀流の調査と資料収集
- (2) 新陰流・一刀流の形の元来の仕様の研究
- (3) 古流剣術に通底する修練法と思想の研究
- (4) 形稽古と竹刀で打ち合う撃剣との関係の研究
- (5) 近代剣道への古流剣術の影響と相違の解明

2. 研究の進捗状況

- (1) 新陰流・一刀流の調査と資料収集
新陰流は、柳生の庄(奈良県)と柳生家(名古屋)を調査し、資料収集。一刀流は、小野家伝書がある春風館文庫(金沢市)を調査し、資料収集。
- (2) 流派の形の元来の仕様の研究
新陰流の伝承術技を踏まえながら、18世紀初頭までの6文献の叙述から、元来の形の仕様を推定復元を試みる。
一刀流の伝承術技を踏まえながら、18世紀前後の小野家伝書と津軽伝書
- (3) 古流剣術に通底する修練法と思想の研究
元来の形の仕様を踏まえた上で柳生宗矩『兵法家伝書』等の口伝書を解釈する。
宮本武蔵等の伝書も合わせて、古流剣術に通底する修練法と思想を明らかにする。
- (4) 形稽古と竹刀で打ち合う撃剣との関係の研究
18世紀中期から防具を着け竹刀で打ち合う撃剣が流行するが、この成立と展開の実態を研究する。

撃剣を受容した中西派一刀流に対する小野家からの批判する書簡から流派剣術からの批判の内容を研究している

(5) 近代剣道への古流剣術の影響と相違の解明

山岡鉄舟は、撃剣を行う北辰一刀流から参禅も含めた独自の工夫から無刀流を開いたが、小野家当代から古来の一刀流を受け継ぎ「一刀正伝無刀流」を称したので、この間の内容を、一刀流の元来の術技と無刀流の術技との関係、および小野家と鉄舟の文献から研究している。鉄舟は、武蔵などの文献も収集して後代に伝えているので、鉄舟を視点に古流剣術と近代剣道の影響と相違を解明する。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

- (1) 新陰流・一刀流の調査と資料収集
柳生家の原典資料は見る事が許されなかったが、陰流・愛洲移香関係の資料、柳生家以外の新陰流の古文献資料を収集した。
春風館文庫の原典の必要部分を写真撮影するとともに影印版12冊の寄贈を受ける。また未見の17世紀後期の小野家文献の写本を発見した。
- (2) 新陰流・一刀流の形の元来の仕様の研究
新陰流の古文献を翻刻、注解をつけ、それに相当する復元術技の分解写真を掲載した論文を著した。日本武道学会で、研究方法と根拠となる文献の記述と復元演武の映像を発表した。
一刀流に関しては、研究協力者の論文で、研究方法と資料の一部が翻刻されている。これを踏まえ、文献に基づいて推定される元来の形の復元演武を研究中である。

- (3) 古流剣術に通底する修練法と思想の研究
 新陰流の形を貫くものとして「転家(まろばし)」があり、『兵法家(まろばし)』の思想もそれに基づくことを『兵法家(まろばし)』の序文で簡略に示した。これは宮本武蔵の術技と思想に關しては、研究代表者が『宮本武蔵 兵法の「道」を生きたる』(吉波新書)を著し、また講演等で広く発表している。
- (4) 形稽古と竹刀で打ち合う撃剣との関係の研究
 撃剣の生じてきた歴史的背景とその展開の様子は、国際日本文化研究センターの共同研究会で発表し、本年中に論文が出版予定である。
- (5) 近代剣道への古流剣術の影響と相違の解明
 研究代表者が「武道の歴史とその精神」の中で、簡略な見通しを書き、また「剣道の指導法」の中で、今日の剣道法にも古流剣術の修練法が活かされていることを示唆した。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 新陰流・一刀流の調査と資料収集
 新陰流の流祖・上泉伊勢守の資料収集(米沢市・上泉家)(平成23年度の計画)
 新陰流・一刀流関係の資料を小田原図書館等で調査する
- (2) 新陰流・一刀流の形の元来の仕様の研究
 新陰流「二十七箇条截合」の仕様を推定、復元する。表の形との関係も研究する。鍋島家などの古文書による新陰流の他系の形の仕様を研究する。これまでの研究をまとめて書籍にする。一刀流について、根拠となる文献を翻刻するとともに、それに基づいて推定される元来の形の演武の分解写真も掲載した論文を仕上げるととのに現在までの変容過程を明確にする。
- (3) 古流剣術に通底する修練法と思想の研究
 新陰流の研究をまとめる中で、また一刀流の論文の中でも、通底するものが明確になると思われる。
- (4) 形稽古と竹刀で打ち合う撃剣との関係の研究
 一刀流の中で、撃剣の受容とそれに伴う小野宗家が危惧した点を明らかにした点を解明した上で、北辰一刀流のあり様を改めて問題にしたい。
- (5) 近代剣道への古流剣術の影響と相違の解明
 山岡鉄舟を視点として、上記の古流剣術の研究で解明されたことを踏まえて、この影響と相違を解明したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

長南信之、立木幸敏、魚住孝至;

「小野家伝書に見る一刀流剣術」

国際武道大学『武道・スポーツ科学研究所年

報』第16号印刷中;2011年、査読無し

魚住孝至「十八世紀における武術文化の再編成 社会的背景とその影響」

国際日本文化研究センター・笠谷和比古編『十八世紀日本の文化状況と国際環境』(思文閣);2011年、査読なし

〔学会発表〕(計1件)

大保木輝雄「武道の教材化に関する一試論 新学習指導要領をめくって」日本武道学会第43回大会

〔図書〕(計2件)

魚住孝至ら IBU BUDO SERIES Vol.1 “The History and Spit of Budo” 国際武道大学 武道・スポーツ科学研究所;2010、138頁

魚住孝至ら 『武道の歴史とその精神』(増補版)

国際武道大学武道・スポーツ科学研究所;2010、216頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

なし